


株主の皆様へ

2012年3月期
上半期報告

2011年4月1日～2011年9月30日



厳しい経済情勢のなかでも、 「アジアNo.1カンパニー」を目指した 施策を着実に実行していきます。

代表取締役社長

吉原 正昭

2012年3月期上半期の当社グループの業績について、代表の吉原が皆様からのご質問に回答します。

Q 当上半期の事業環境ならびに業績はいかがでしたか？

A 東日本大震災の影響に加え、世界的な景気低迷もあって、残念ながら減収減益となりました。

当上半期の世界経済情勢は、米国債の格下げや欧州の金融不安を契機に、先進国では景気が悪化し、新興国でも成長が鈍化しています。わが国経済も、こうした世界的な経済停滞に加え、急激な円高もあって厳しい環境となり、また、3月に発生した東日本大震災の影響も多くの産業で色濃く残りました。こうした状況下において、当社グループが属するアルミニウム圧延業界の需要は、業界全体で前年同期比5%の減少となりました。

当社グループの売上数量は、第1四半期までは震災復興の需要などもあって比較的順調に推移したものの、第2四半期に入り、国内においては、第1四半期の前倒し需要の反動や、第3四半期の地金価格下落を見越した買い控えが出たことに加え、新興国需要の停滞気運等から輸出も減少し、全体では前年同期比8.5%の減少となりました。

これらの結果、当上半期の売上高は1,008億円(前年同期比4.9%減)、営業利益は51億円(同28.4%減)、経常利益は48億円(同28.6%減)、四半期純利益は28億円(同48.8%減)と、残念ながら減収減益となりました。

なお、こうした厳しい状況にありますが、米国圧延会社への共同投資や、中国での電池用アルミニウム箔等の共同事業の検討開始など、グローバル展開を着実に進めて将来の拡大成長のための足固めを行っています。

以上の結果を踏まえ、株主の皆様に対する中間配当は、予定通りの3円としました。

Q タイの洪水による被害状況や、タイに新工場を建設する狙いを教えてください。

A 当社グループの子会社は浸水被害を受けました。一方で、計画中的新工場は浸水等の被災リスクも低く、アジアの旺盛な需要を取り込み、地域の振興に貢献できると期待しています。

タイでは7月以降の豪雨により大規模な洪水被害が発生しており、同国アユタヤ県ロジャーナ工業団地にある当社子会社Furukawa-Sky Aluminum(Thailand) Co., Ltd.

も、敷地や建物に浸水被害を受け、11月末現在、工場の操業を停止中で、日本からの代替生産によって製品供給を行っています。今後の復旧については、メーカーとしての供給責任を踏まえ、周辺状況も勘案し判断していきます。

なお、当社グループは、中期経営計画の基本方針「成長・拡大する海外市場への的確な対応」の一環として、同国に100%出資のアルミニウム板圧延工場の建設を決定し、2014年1月の操業開始に向けて準備を進めています。今回の災害の影響については未知数ながら、タイが引き続き東南アジア経済の中心であると理解しています。当社による、日本の優れた生産技術に基づく本格的な板圧延事業進出が、同国をはじめ、東南アジア、インド、中国等周辺地域での今後のアルミニウム需要の一層の拡大に貢献できるものと考えています。

また、建設予定地であるラヨン県アマタシティ工業団地は、海拔104メートルに位置し河川とも離れており、今回の洪水でも浸水被害は皆無で、災害リスクの低い地域と考えています。操業開始は2014年で、翌年には黒字化を見込みます。生産規模も、5,000t/月程度から開始し、随時拡張して10,000t/月への早期拡大を目指し、当社グループの主力工場として、別事業も含む一大製造拠点となることも視野に入れて事業を進めていきます。

Q 通期の見通しについて教えてください。

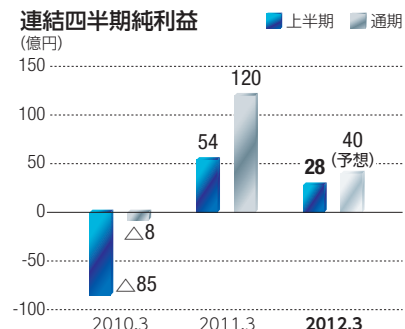
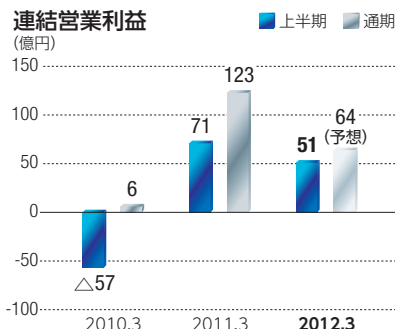
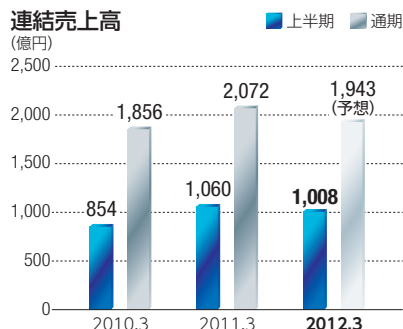
A 不透明な経済情勢が続くなかで、期初の予想を下回る見通しです。

第2四半期以降、EU域内の債務デフォルト不安など、米欧の財政問題が世界的な景気停滞を招いており、史上最高水準にある円高も含め、経済の先行きが見通せない状況が続いています。加えて、タイの洪水によるサプライチェーンの分断も含め、経済および事業環境の不透明感が増幅しています。

こうした環境のもと、下期期間内の回復の見込みは低いと予想されることから、内外需要予測、為替環境、副原料コストなどを厳しく見直した結果、通期の業績は期初の予想を下回る見込みとなりました。

厳しい状況ではありますが、当社グループは中期経営計画のビジョンに掲げる「アジアNo.1の魅力あるカンパニー」を目指し、グローバル展開や、国内事業改革など、将来の体質強化を見据えた各種の施策を着実に実行していきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



成長・拡大が著しいアジアを中心に、 アルミニウム板圧延品マーケットの需要を獲得

当社グループは、「2012中期経営計画」の重点方針に“成長・拡大する海外市場への的確な対応”を掲げています。
なかでも注力しているのが、今後さらなる需要拡大が見込まれるアジアを中心としたアルミニウム板圧延品マーケットです。
すでに2000年代後半から、成長が著しい中国、東南アジアなどに、
生産・販売ネットワークのグローバル展開を積極的に推進しています。

拠点のグローバル化(板製品)



成長市場での板製品のグローバル対応

	中国	東南 アジア	インド	中東	南米
缶ボディ	日本から輸出				TAA ^{※1}
缶エンド	タイの新工場				TAA
自動車熱交材	乳源	タイの新工場			
PS板	乳源	日本から輸出			BAL ^{※2}
箔	乳源				
一般材 (電気関係)	タイの新工場				
厚板	日本から輸出				

※1 TAA:Tri-Arrows Aluminum Inc.

※2 BAL:Bridgnorth Aluminium Ltd.

Bridgnorth Aluminium Ltd. (BAL)

英国(バーミンガム近郊)

AFSEL S.A.

ギリシア(アテネ近郊)

Tri-Arrows Aluminum Inc. (TAA)

米国(ケンタッキー)

乳源東陽光精箔有限公司

中国(韶関)

古河(天津)精密鋁業有限公司 (FSAT)

中国(天津)

古河ス凱(上海)鋁材有限公司 (FSSH)

中国(上海)

Furukawa-Sky Aluminum
(Thailand) Co., Ltd. (FSTH)

タイ(アユタヤ)

Furukawa-Sky Aluminum
(Vietnam) Inc. (FSV)

ベトナム(ホーチミン)

PT.Furukawa Indal Aluminum (FIA)

インドネシア(スラバヤ近郊)

アジアの成長需要を見据えて、 東南アジアにおける本格的な 板圧延の工場を建設

中国やインド、東南アジア諸国では、人口増加と経済成長を背景に、アルミニウム板の需要が急激に拡大しています。こうした需要に対応するために、当社グループは、タイのラヨン県アマタシティ工業団地内に、100%出資によるアルミニウム板圧延工場の建設を決定。2012年3月に建設を開始し、2014年1月頃の操業開始を目指します。



海拔104mの安全な地域に建設予定



暮らしの中の
古河スカイ

第1回

高まり続けるLNG需要とアルミニウム

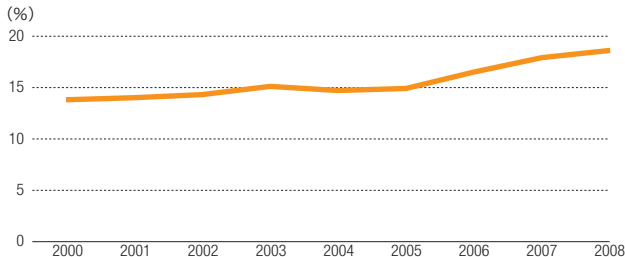
人々の暮らしや産業を支えるエネルギー資源のなかでも、近年、特に需要が高まっているLNG(Liquefied Natural Gas:液化天然ガス)。古河スカイは、このLNGを輸送する「LNG船」に用いられるアルミニウム材を供給できる、国内で唯一、世界でも数少ないメーカーとして、大きな存在感を示しています。

世界最大のLNG輸入国—日本

環境への意識の高まりを受けて 需要が拡大

LNGは、燃焼時のCO₂排出量が石油や石炭に比べて少ないことから、クリーンエネルギーとして注目されています。また、埋蔵量が豊富で長期にわたり安定供給が可能なこともあって、日本では年々、輸入量が増加しており、いまや世界最大のLNG輸入国となっています。

日本の天然ガス供給量(割合)*推移



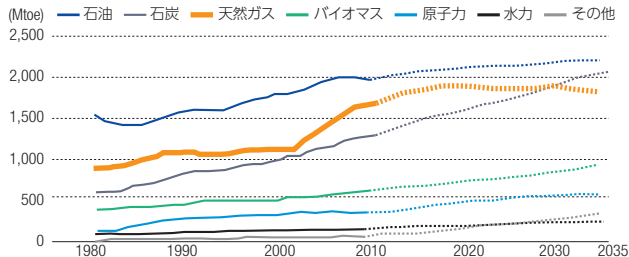
*日本の一次エネルギー供給量における天然ガスの供給量の割合
(出所)資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」をもとに作成

世界的に需要が高まるLNG

東日本大震災にともなう エネルギー政策の変動で需要の高まりが加速

LNGの需要は日本だけでなく、世界規模でも高まっています。特に、2011年3月に発生した東日本大震災を受けて、世界各地でエネルギー政策の見直しが活発化しており、今後もクリーンエネルギーへの転換が進むにつれ、LNGが採用されるケースはさらに増加するものと見られています。

世界の一次エネルギー消費量の推移と見通し



(注) IEA(国際エネルギー機関)は2035年にLNG需要が62%増、全エネルギーの1/4を占めるとの見通しを発表

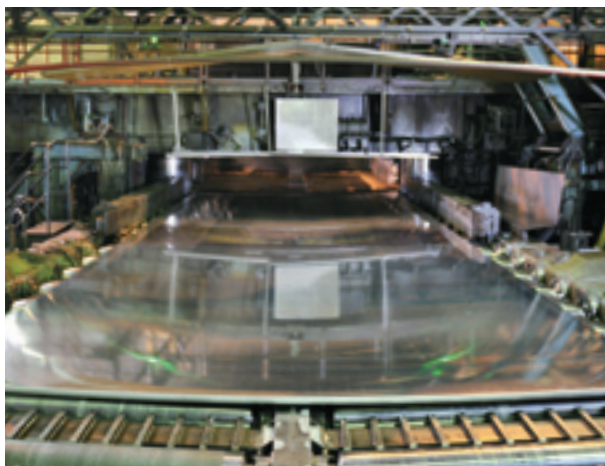
(出所) IEA「WORLD ENERGY OUTLOOK 2011」

国内唯一のLNG船用アルミニウムの供給メーカー、
古河スカイ

巨大アルミニウム板の製造を 可能にする大型設備を完備

近年では、一度により多くのLNGを輸送できるよう、LNG船の大型化が進んでいます。高まり続けるLNG需要に応えるために、供給力の強化と輸送コストの削減を図る必要があるからです。

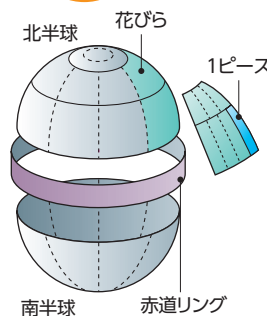
LNG船に求められるアルミ板は、畳何十畳にも及ぶ大きな厚板ですが、その生産には大規模な生産設備とともに、ハイレベルで均一な品質を実現する高度な技術力が不可欠です。古河スカイは、この両方を併せ持ち、高品質な大型アルミニウム製品を供給できる国内で唯一、そして世界でも数少ない存在です。



世界最大級の大型圧延機

COLUMN

なぜ、LNG船は
アルミニウムで
できているの？



天然ガスは液化することで体積が1/600になり、LNG船で大量輸送できるようになります。ただし、液化するためにはマイナス163℃に冷却する必要があり、輸送時でもその低温を維持しなければなりません。この極低温に耐えるため、LNG船のタンクには低温に強いアルミニウムが採用されているのです。

直径40mを超える巨大なLNGタンクを作るために、小さな板を何枚も貼り合わせているのは、品質や安全性に不安が生じます。このため、できるだけ少ない枚数でタンクを形成することが求められ、通常のスケールを超えた大きなアルミニウム板が使われています。

なぜ、LNG船には
大きな
アルミニウムが
必要なの？

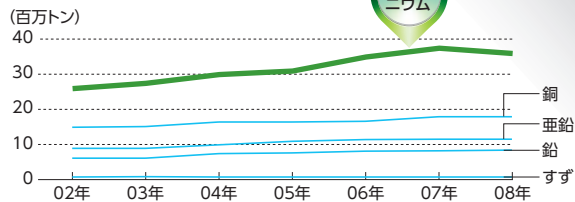


LNGを収納するタンクに
使用されるアルミニウム板材
板厚60×幅4,030×長さ16,350(mm)

アルミニウムの人気の秘密

他の金属素材にない多くのメリットを持つことから、社会や産業のあらゆるシーンで活躍するアルミニウム。私たちの身の回りから先端産業分野まで、対応領域の幅広さゆえに、その消費量は年々増え続けており、他の非鉄金属と比較しても顕著な伸びを見せています。

主な非鉄金属の世界の消費量推移(暦年)



出典:(社)日本アルミニウム協会「アルミ延品ポケットブック2009」

秘密

1

多彩な機能を持つ素材だから

軽くて丈夫、加工しやすい...などなど、素材としてのアルミニウムのメリットは枚挙にいとまがないほど。しかも、まだ発見されて200年という“若い素材”のため、活発な研究によって今後も未知なる可能性を發揮することが期待されています。

- ✓ 軽い
- ✓ 耐食性がよい
- ✓ 加工性に優れる
- ✓ 美しい
- ✓ 毒性がない
- ✓ 低温に強い
- ✓ 再生しやすい
- ✓ 鋳造しやすい
- ✓ 電気をよく通す
- ✓ 熱をよく伝える
- ✓ 光や熱を反射する
- ✓ 強い
- ✓ 磁気を帯びない

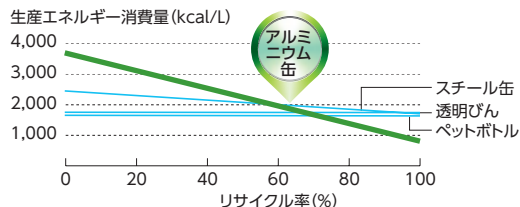
秘密

3

リサイクルすればするほど省エネになるから

飲料容器にかかるエネルギー量を、製造から使用、廃棄・回収、リサイクルに至るライフサイクル全体で比較してみると、アルミニウム缶の省エネ性能の高さは一目瞭然。リサイクルすればするほどエネルギー量を低減でき、省エネに貢献できるのです。

ワンウェイ容器のライフサイクルエネルギー試算結果



出所:軽金属学会

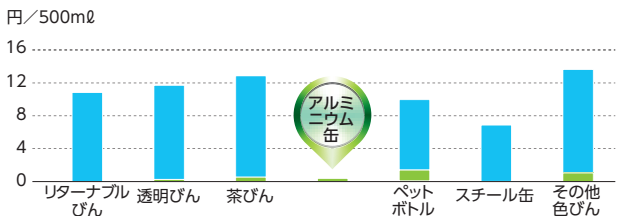
秘密

2

リサイクルコストが安いから

アルミニウムの特長の一つである「リサイクルのしやすさ」は、リサイクルにかかるコストの低さを意味します。実際、アルミニウム缶のリサイクルコストは、他の飲料容器と比較して圧倒的に安価。省資源に貢献するだけでなく、経済的にも優れているのです。

容器別リサイクルに必要な総コスト



出所:(社)日本アルミニウム協会



損益計算書

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別 前第2四半期 連結累計期間 (2010年4月1日～9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2011年4月1日～9月30日)
売上高	105,997	100,802
売上原価	90,455	87,322
売上総利益	15,541	13,480
販売費及び一般管理費	8,409	8,375
営業利益	7,132	5,105
営業外収益	463	382
営業外費用	829	657
経常利益	6,766	4,830
特別利益	58	4
特別損失	1,030	304
税金等調整前四半期純損益	5,794	4,530
法人税、住民税及び事業税	344	1,378
法人税等調整額	△37	316
少数株主利益	53	56
四半期純利益	5,434	2,780

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別 前第2四半期 連結累計期間 (2010年4月1日～9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2011年4月1日～9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,267	7,057
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,147	△20,152
財務活動によるキャッシュ・フロー	△837	△2,194
現金及び現金同等物に係る換算差額	△23	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,264	△15,295
現金及び現金同等物の期首残高	4,111	20,115
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,375	4,820

貸借対照表

単位:百万円(四捨五入)

科目	期別 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (2011年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (2011年9月30日)
資産の部		
流動資産	112,782	106,639
固定資産	105,096	111,149
有形固定資産	89,417	86,257
無形固定資産	1,890	1,727
投資その他の資産	13,789	23,165
資産合計	217,878	217,787
負債の部		
流動負債	88,169	88,296
固定負債	59,802	58,788
負債合計	147,971	147,084
純資産の部		
株主資本	69,995	72,094
その他の包括利益累計額	△633	△1,956
少数株主持分	546	566
純資産合計	69,907	70,704
負債純資産合計	217,878	217,787



会社概要 (2011年9月30日現在)

社名	古河スカイ株式会社
ホームページ	http://www.furukawa-sky.co.jp/
事業内容	アルミニウム製品および アルミニウム合金製品の 製造、加工、販売
設立	2003年10月
資本金	165億2,840万円
従業員数	3,603名(連結)、2,003名(単体)
主要な営業所 および工場	本 社 東京都千代田区 営業所 関西支社(大阪市北区) 中部支社(名古屋市東区) 九州支社(福岡市博多区) 工 場 福井工場、深谷工場、 日光工場、小山工場 研究所 技術研究所(埼玉県深谷市)

役員

代表取締役社長	吉原 正照
専務取締役	鶴堀 憲二
常務取締役	西辻 孝三 楠本 昭彦 岡田 満
取締役	内藤 秀彦 長南 邦年 渡辺 幸博 長谷川 久 中野 隆喜 田中 清 土屋 博範
常勤監査役	石原 宣宏
監査役	櫻 日出雄 菅野 幹宏 森 高弘



株式の状況 (2011年9月30日現在)

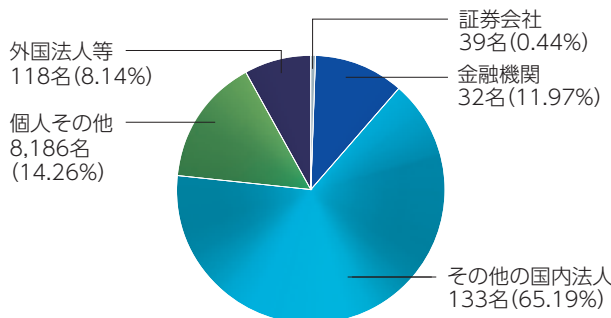
発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式総数	227,100,000株 (自己株式12,273株を含む)
株主数	8,508名

大株主

株主名	持株数 千株	持株比率 %
古河電気工業株式会社	120,365	53.00
新日本製鐵株式会社	18,700	8.23
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,707	3.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,324	2.78
古河スカイ従業員持株会	4,503	1.98
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	3,843	1.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,749	1.21
丸紅株式会社	2,271	1.00
三井物産株式会社	2,271	1.00
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,809	0.79

(注)持株比率は自己株式(12,273株)を控除して計算しております。

所有者別の構成比率(株式数比率)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告(http://www.furukawa-sky.co.jp/) (やむを得ない事由により、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 (トラストラウンジを除く) みずほインバスターズ 証券株式会社本店および 全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取り以外の株式売買はできません。

(※)未払配当金の支払のみ、みずほ銀行でもお取扱いたします。

- 確定申告の際には、同封の配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。

初の株主様工場見学会を実施

当社初の試みとして、株主様を対象とした工場見学会を2011年10月に深谷工場で開催しました。応募者約400名の中から抽選で選ばれた32名様に、製造工程や技術設備をご覧いただくとともに、映像・パネル展示などを通じて、アルミニウム製品が現代社会に不可欠なものとして身近にあふれていることをご紹介しました。



Webサイトをリニューアル

より使いやすく、より多くの情報を提供できるサイトを目指し、2011年10月から当社Webサイトを全面的にリニューアルしました。各種情報を充実させるとともに、グローバルな企業展開を踏まえ、英文サイトに加えて中文サイトを新設しました。



<http://www.furukawa-sky.co.jp/>

 **古河スカイ株式会社**

〒101-8970 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX12階
TEL (03) 5295-3800(代表) FAX (03) 5295-3760
<http://www.furukawa-sky.co.jp/>

